

96 パリ水槽を泳ぐ宝石 -ニシキゴイとクラゲ- (2022年1月27日)

パリ16区のトロカデロ庭園の下にパリ水族館があります。パリ水族館は、1867年のパリ万国博覧会の際に建てられた世界で最も古い水族館です。ここで意外な日本とのつながりを見つけました。

一つ目は、ニシキゴイです。水族館を見学していると日本的な雰囲気的水槽が現れます。和風のオブジェが置かれて、日本庭園を再現しています。そして、水槽の中では、たくさんのニシキゴイが勢いよく泳いでいます。オレンジ、黄色、白、赤や黒のまだら模様などカラフルなニシキゴイに目を惹かれます。体長は50センチ以上ありますので、間近で見ると迫力があります。ニシキゴイは鯉の仲間で、日本で鯉が生息する川はありますが、このようなカラフルな魚が川を泳いでいるわけではありません。



ニシキゴイの始まりは、約200年前に新潟県の山合でマゴイが突然変異したものを、鑑賞用として養殖したものだと言われています。日本では、お城や寺院の日本庭園の中にある池で見かけます。近年は海外でも錦鯉の愛好家が増えて、輸出されています。一匹1万円程度のものから、高いものになると200万円ほどするものもあります。ニシキゴイの親一匹から数十万匹の稚魚が生まれますが、色や模様が美しく、品評会に出品されるものは0.5%程度だと言われています。私たちが目にするニシキゴイは選び抜かれたエリートですので、高価になります。美しい姿から「泳ぐ芸術品」や「泳ぐ宝石」と言われています。



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

もう一つは、クラゲです。パリ水族館には約 2500 を数えるクラゲが飼育されており、その数と種類はヨーロッパ最大級を誇ります。実は、パリ水族館は山形県にある鶴岡市立加茂水族館と 2016 年に友好提携を結びました。加茂水族館は、クラゲの飼育では世界最大規模の水族館で、パリ水族館の飼育員が加茂水族館で研修を行ったことが縁となって、友好園となりました。パリ水族館にはいくつものクラゲの水槽があり、よく見ると形が違います。暗い部屋の中で様々な色に光るクラゲは美しく、観る者を神秘的な世界に引き込んでくれます。



加茂水族館は、クラゲの飼育で世界的な地位を確立するまでに紆余曲折がありました。地方都市にある水族館は、経営難から何度も閉園の危機がありましたが、クラゲの飼育で名を挙げたことで危機を脱することができました。パリ水族館のポビレビッチ館長にお会いした際、館長は、加茂水族館との協力のおかげで大規模なクラゲの飼育に成功したと話されました。クラゲはその意外な美しさだけでなく、二つの水族館を輝かせたという意味で「宝石」と言えるかもしれません。

パリ水族館 <https://www.aquariumdeparis.com/promenade-japonaise/> (仏語のみ)

加茂水族館 <https://kamo-kurage.jp/>